文月 愛南文芸

城辺俳句会

純白の蓮の開く夜明けの気　山本　節子
四方より山迫りくる夏始　加納　幸子
初鰹刻印のある土佐の出刃　橋本　百代
風薫る一人旅行に出発す　吉田　丸美
川音に堤歩めば青き嶺　宮田志賀子
迫りくる新緑背に渡月橋　大浜　紀子
諸鳥の声に明けゆく桐の花　井手　幸子
柏餅まづは柏の葉のにほひ　山田　静恵
瑞祥の鳶の笛聞く五月来る　大和田いそ子

城辺川柳会

「顔」
眉と紅ひいて表の顔となる　橋本　百代
九十八才変らぬ顔にびっくりし　藤森　玉子
古希の会面影残す友の顔　稲田つるみ
いけ面で少しクールがたまらない　木戸冨士子
マスク掛け希望の笑顔見えぬ春　本多　一会
顔よりも気持ひとつで覚えられ　飯田　律子
コロナ菌自粛で美人むくれ顔　本多　暁
苦も楽も月日が刻む顔の皺　沖　佐賀

新くさの葉短歌会

広報に添えて届きし型紙に
マスクを作る若葉の窓辺　前田　充
子も嫁も孫の二人も教師なれど
夫と吾には宿題もなし　宮下喜久子
カレンダーめくれば五月「ちひろ」の絵
七色の虹子ら見上げおり　河上　明美
にぎやかに娘夫婦の田植機は
休む間もなく一反植え了う　西﨑　文恵

▶俳人をご紹介します

城辺俳句会
宮田志賀子さん（城辺甲）

※名前は、俳号です。

以前、城辺俳句会で活躍されていた倉田美津枝さんから誘われ、俳句会に入会したのが、十二年前の80歳でした。

入会後は、野の草花や虫、鳥などを慈しむようになりました。とりわけ、双眼鏡を購入してからは、高茂岬のサシバの渡り、南楽園の野鳥観察、関連ある記事を切り抜くなど、生活の幅を広げてきました。

また、十二年間の投句を罫紙にまとめて、手作りの句集を作成し、丁寧かつ味わい深い晩学になるように努めています。

はじめまして。赤ちゃん。

5月受付分（敬称略）

地区名	子の名	保護者

ご冥福をお祈りします。

5月受付分（敬称略）

地区名	亡くなった方	満年齢

※上記情報は、広報紙掲載に対して、ご家族等に同意を頂いております。